

日 時：令和5年8月23日（水）14:00

場 所：市役所 政策会議室

出席者：市長、理事、政策推進室長、観光交流課長、防災課長、秘書係長

取材者：読売新聞社、岩手日報社、東海新報社、河北新報社、IBC 岩手放送、テレビ岩手

（敬称略、順不同）

## ○ 議 事

### (1) 市長からの話題提供等について

昨日、福島第一原発処理水が明日にも放出開始という報道がされております。私のコメントにつきましては、昨日、各社にお伝えしたところでございます。これまで市長に就任してから、経済産業省の幹部の方、復興庁の方などと意見交換をしておりますが、当市の基幹産業である水産業に風評被害の影響が出る恐れがあるため、海洋放出に反対という立場をしっかりと伝えております。国に対しては、海洋放出以外の方法の検討をお願いしており、経済産業省の方からも放出が決まったら、ずっと継続するのではなく、並行して、もっとより良い別の方法を引き続き検討していくというお約束をしていただいております。

さらに、仮に風評被害が生じた場合は、速やかに対策を国が責任を持って行ってほしいということを強く求めています。これは報道でもありますように、処理水が放出された後の風評被害については、いろいろ万全の対策を講じているという回答を国の方から受けていますが、実際に水産物の値段が下がったなどの影響が出た場合に、次の日から対策が打てるかという点、なかなかすぐには発動できない、あるいは、我々が望むような漁業振興策は予算のなかで十分に対応してない部分もあります。これから具体的な問題が出たときに、しっかりと対策を講じるように柔軟で迅速な対応を関係省庁にお願いしています。具体的に風評被害につきましては、放射能関係で一番端的な例は「気仙沼のほや」です。震災前は韓国にかなり高い価格で輸出していましたが、この放射能の問題で韓国が東北からの輸入をストップしていますので、そのように漁業者のさまざまな努力がこの風評被害などの影響も実際には今でも続いています。

さらに、最近の報道でもありますように、中国、香港が水産物の輸入手続きを厳しくするという点で、これにより日本からの水産物の輸出が減っている状況にあります。私は、1年前まで水産庁で水産物の輸出の担当をしておりましたが、その際に、中国のバイヤーの方から「処理水がもし放出されれば、日本からのホタテの輸入はすべて止まるであろう。そのため、今のうちにどんどん買っておく。」という話もありました。少なくとも、処理水が放出されれば、北海道を中心とした日本から中国へのホタテの輸出が止まる。これが国内マーケットに還流されると、陸前高田のホタテの値段等が下がるとか、そのような間接的な様々な問題も派生してくるという恐れがあります。風評被害が間接的にも陸前高田の漁業関係者に打撃を与える恐れがあるため、必要な対応を国に求めていくということにしております。

(質疑)

**河北新報：**

処理水について、国が基金を用意しているという話がありますが、その基金の運用に関してどのような形が良いのか、市長としての考えはありますか。

**市長：**

基金の内容や運用は、詳細情報が出ているわけではないため、運用面での発言は難しいですが、少なくとも陸前高田の漁業振興のために処理水で影響を受けた方々が立ち向かっていけるような体制を作るためのメニューは、十分ではないと思っています。

## (2) 大船渡記者クラブから

**ア 副市長人事について**

空白となっている副市長の人選に関してどのような状況か教えてください。現時点でいつごろ議会に諮るのか可能であれば見通しもご教示願います。

**市長：**

人事のことなので詳しく言える段階ではないですが、現状につきましては、外部の組織にすでにお問い合わせしています。いつ頃回答をいただけるか、いつ頃陸前高田市に就任できるか、私もわかりませんので相手方のご回答をお待ちしている状況でございます。

(質疑)

**東海新報：**

外部の組織とは、国とか県とかの様々な組織があるなかで、どのような組織でしょうか。

**市長：**

少なくとも私の出身母体の省庁ではありません。

**東海新報：**

いつ頃回答をもらえるかはわからないということですが、9月定例会への提出の可能性はないということでしょうか。

**理事：**

今回は9月ではなく定例会が10月になります。人事の関係ですので、向こうの方と折り合いが付いてからになるため、日程は未定です。

**読売新聞：**

副市長は、民間ではなく、行政の方から依頼しているということですか。

**市長：**

はい。

**東海新報：**

求めている副市長としての人物は、例えば市長が掲げている公約に関してリーダー的に進めてもらいたいなど、どのような人を求めていますか。

**市長：**

私の公約については、公約を作る際に助言してくれた方々や自分の考えなどで、今のところ対応していけると考えています。一方で副市長については、私とはまた違う角度で陸前高田の市政をしっかりとフォローできる方がいいのではないかと考えています。まだ、先方から必ず出しますというお約束ではなく、検討しますという段階です。

### **イ 陸前高田市内の海水浴場の利用状況について**

新型コロナウイルスの5類移行に伴い、市内の海水浴場への来場者はどのように変化したのかを教えてください。可能であれば、今季の来場者数などを示してください。

**市長：**

高田松原海水浴場の開設期間の7月15日から8月20日のうち33日間のデータで言いますと、入込数は19,532人、前年は25日間で8,223人と倍増以上になっています。要因として開設期間が長いというのがありますが、今年は非常に暑く、良い天気にも恵まれているということ、海上アスレチックなどこれまでになかった斬新な取り組みも行われていることが要因と思っています。広田海水浴場につきましては、開設期間7月15日から8月20日のうち35日間、入込数が5,190人、去年が7,442名でした。去年よりも減小しており、要因の分析はこれからですが、予想されるのは高田松原海水浴場にお客さんが行ったのかなと感じております。

(質疑)

**河北新報：**

今年からコロナ5類移行になったことから、市内全域の人出が増え、海水浴場の利用客の増につながっているようなところは感じますか。

**市長：**

それはとても大きいと思います。どのくらい天気とコロナのどちらの影響が大きいかと申し上げるのは難しいですが。

**河北新報：**

今年非常に新しい取り組みを高田松原海水浴場でされていましたが、来年以降はこのような取り組みをどのようにしていきたいですか。

**市長：**

実際に海上アスレチックなど様々な設備が整った海水浴場を見て、とても素晴らしい海水浴場になったなと思います。来年も引き続き市もよりPRしながら、たくさんの方々に来ていただけるように努力したいと思います。

**東海新報：**

震災前の入込数が22年は約17万と結構多かったと思いますが、震災前と比較してこの入込数はどのように受け止めていますか。

**市長：**

統計の取り方が違うため、かつては海水浴客だけではなく、松原周辺に来た方々もデータが加算されていたため、かなり大きな数字になったと思われています。一方で、私も海水浴場を見学した際に、家族連れでみんながビニールシートを引いて過ごしていた昔の松原とは今はだいぶ違うのかなと思います。海水浴客は昔と比べたら半分もいない感じです。面積もだいぶ減少したことやコロナの影響や暑い環境もあると思います。

**東海新報：**

震災後、観光入込数が年間100万人を突破したなかで、高田松原の海は相当強い武器だと思いますが、例えば年間の入込数の目標数値はありますか。

**市長：**

ありません。

#### **ウ 市長選で掲げた公約について**

新たに取り組むことが決まった事案があれば内容と開始時期を教えてください。

**市長：**

私が考えた公約のうち、農林水産業の生産額の増大と新たな雇用の創出に関連する事案として、新しい事業の陸前高田での実現に向けて、これまで技術的な協議や現地視察を行いました。さらに、現在その事業を実施する企業関係者と市内の関係者とで話し合いも行われております。まだ、この内容については表に出せる状況ではないですが、来週には事業の実施について、実質的に決まるのではないかと期待もしております。それに向けて、できれば来週中に事業の概要などをプレスリリースなどで皆さんにご報告ができればと思っています。ちなみにプレスリリースは東京でも行う予定にしていますので、そのような会社が事業を行うということです。最終的な詰め段階に来ていますので、そのようなプロセスを静かに見守っているという状況です。

(質疑)

**河北新報：**

業種は水産関係でしょうか。

**市長：**

はい。

**読売新聞：**

記者会見は行わないのでしょうか。

**市長：**

プレスリリースしか考えていませんが、もしご希望があればそれに応じて可能な対応をしたいと思います。

**河北新報：**

記事にする上で、写真とか映像は必須だと思いますので、そのような場面的なものがあれば取り上げやすいと思っております。

**市長：**

来週行うものは、いつから実施するか、どこの会社かという概要ぐらいになるため、握手をしたり、セレモニーはまだしない予定です。県の許可が降りてから行う予定としています。

**河北新報：**

まだセレモニーの実施はもう少し先になりそうですか。

**市長：**

来週、漁協の会合があり、そこで承認されればとなります。特段問題はないと聞いていますが、処理水の問題等でいろいろとザワザワしている状況のため、静かに見守りたいなと感じています。

**東海新報：**

新事業実現に向けて、今技術的協議や現地視察を行ったとの話ですが、いつ頃から行っているのでしょうか。

**市長：**

技術的な協議は私自身が行っていますが、4月の後半くらいから事業実施に係る場所や条件、施設の関係の協議を行っていました。視察は先月に船で行いました。

**東海新報：**

公約実現に向けた4月からの動きで今の段階に至っているということでしょうか。

**市長：**

はい。

次回 9月28日（木）13：30～（記者会見）

10月25日（水）14：00～（記者懇談会）